



# 学校だより

<家庭数> 第11号  
令和3年2月26日発行  
品川区立第四日野小学校  
校長 島崎 一江

<http://school.cts.ne.jp/hino4/>

## 弥生を迎えて

校長 島崎 一江

3月を迎えます。ウィズコロナの1年間でした。それでも、例年通り、三寒四温で季節は進み、かむろ坂の桜のつぼみがピンク色にふくらみはじめました。春の訪れです。やっと新型コロナウイルスのワクチン接種が日本でも始まりました。課題はあるにせよ大きな一歩です。ウィズコロナの生活に春の兆しが見えてきました。続いて待たれるのは治療薬です。早く安心して生活できるようになりたいものです。

3月を迎え、この1か月で子どもたちはそれぞれ進級します。6年生は中学生です。みんな、4月からの自分にドキドキワクワクの3月です。この3学期の初めに、「まず、目標を決めましょう。今の自分を見つめてみてください。何ができていて、もっとやらねばならないことは何かを考えて、目標を自分で決めてください。うっかりしていると、あっという間に3学期が終わってしまいますよ。」と子どもたちに話しました。さて、目標にどこまで近づけたでしょう。自分のことを自分で知り、自分自身で成長したことを認め、次の学年に向けて目標を立ててほしいと思います。学校では、主体的に学ぶ子どもたちを育てようと、研究に励み実践を重ねています。1月の研究発表会で、保護者の皆様にも研究の一端を見ていただくことと予定していましたが、残念ながら緊急事態宣言が発令されたため発表会はできませんでした。でも、子どもたちの成長している姿で成果を見ていただけるように、これからも頑張っていきます。主体性をもって、自ら考え、学び、遊ぶような生活ができれば『たのしい』です。「こうしたらどうなるかな」「よし、こうしてみよう」「もっとこうしてみたい」と思考も膨らんでいきます。いろいろな『たのしい』に出会えます。私たちは、子どもたちの知的好奇心の「～たい」を増やしていきたいと考えます。『たのしい学校』をみんなで作っていきます。今年度最後の1か月間、目標に向かって、たのしく過ごし、新しい学年をたのしく迎えられることを願っています。

とはいえ、学校生活ではいろいろなことがあります。残念ながら、いいことばかりではありません。子どもたちにとって学校は社会そのものです。乗り越えなければならないことに多々直面します。そこで、たとえ傷ついても立ち直る力『レジリエンス』が必要です。本来、もともと人が持っている力ですが、時折、補強しなければなりません。苦しいこと、悲しいこと、それを友達と乗り越えていけるような環境を作り出していきたいと努めています。これは、ご家庭の協力があってこそ成し得ることであります。子どもたちの笑顔のために、どうぞ、今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、来年度はおかげさまで開校96周年です。「幾千代かけてゆるぎなく、わが学び舎は栄えゆく」と校歌にあるように、これからも立派な学び舎の継承者を育ててまいります。笑顔あふれる温かい校風を守り、全力で教育活動を行ってまいります。

3月、弥生。新しい春がやってきます。3月24日は第95回卒業式。卒業生40名が巣立っていきます。25日は修了式です。皆様には1年間、温かいご支援ご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

